

「アガペ」 (題字・伊藤博胤)

アガペ

日本社会事業大学同窓会北海道支部【(2021年2月11日発行 第31号)】

(事務局=むかわ町穂別80番地10 愛誠会内 0145-45-2455)

コロナ禍における社大の現況と同窓生へのお願い

日社大社会福祉学部福祉計画学科准教授 (同窓会事務局長) 菱沼 幹男

新型コロナウイルス感染症により、学生達の学ぶ環境が大きく変わりました。昨年度の卒業式は、開催する方向で直前まで検討されていましたが、結果的にはやむを得ず中止となり、卒業生達の晴れ姿を見て送り出すことは叶いませんでした。また私自身、昨年1月に脳梗塞で入院となり、処置が早かったこともあって3月から復職できたものの、心配してくれたゼミ生達に会うことができなかつたのは大きな心残りとなっています。

今年度の入学式も中止となり、新入生達は、登校して同級生と顔を合わせることもなく、前期授業が始まりました。それも、通学によらない形で授業を行うこととなり、本学ではどのような方法で授業を行うかは各教員に委ねられました。教員自身も「体調に留意しつつ登校するように」と大学から指示がある中で、多くの授業が毎週レポート課題となり、学生達の負担がかなり増えていきました。

こうしたことから私の授業では、Zoom による授業を6月から実施することにしました。これまで全く Zoom を使ったことがなく、また約200名の学生が受講する必修科目の講義が安定した通信環境で配信できるかどうかとても不安でした。しかし、大学の研究室から時間割に即してリアルタイムで行ったところ、無事に行うことができ、これにより例年とほぼ同様の授業を行うことが可能となりました。

なお本学には、障害のある学生達もいるため、Zoom での授業を始める前に大学教務課や学生支援課、聴覚障害学生支援プロジェクト室と連携を取り、個々の学生達の状況を確認しながら情報保障の体制を整えていきました。特に聴覚障害学生支援プロジェクト室が綿密に対応策を考えてくれ具体的には手話通訳者にも Zoom に入ってもらい、かつ聴覚障害の学生達と手話通訳者の間で LINE グループを設け連絡を取り合えるようになりました。

また大学として、Google と契約をしていたことから、授業では Google classroom を利用し、各科目のページをネット上に作成し、受講者にはクラスコードを伝えてクラスに登録してもらい

ました。これは、授業資料の配付や様々な連絡に加えて、簡単なテストの実施やリアクションペーパー等の提出もできるものです。これまで通学の授業では、資料を印刷して配布し、残部は古紙に出すということをしてきましたが、この作業がすべてなくなりました。また、学生達のリアクションペーパーも Google フォームを活用してデータで提出してもらうようになりました。さらには、Zoom 授業の録画データをクラスルームへアップすることで、授業当日に通信が不安定だった学生だけではなく、何らかの事情で欠席せざるを得なかった学生や復習をしたい学生も視聴できるようになりました。これらは、これまでの授業にはなかった大きな利点と言えます。

しかし、講義中は受講者のビデオ映像はオフにしていることから、学生達の表情を見ながら話すことができないという問題も出てきました。Zoom は一人でもビデオ映像をオンにしていると、全員の通信データが増えてしまうため、教員と通話者のみがビデオ映像をオンにします。そうすると、学生達がきちんと授業を受けているかどうか分からないということを心配する先生方もいます。これについては、実は教室の授業でも同じことであり、いかに授業に関心を持ってもらえるのか、教員側の工夫が重要であると考えています。

なお、Zoom にはブレイクアウトルーム機能があり、少人数に分かれることができるため、オンラインでグループワークを行えたのは、演習授業において大いに役立ちました。また、Zoom を利用することで、遠方の人にゲストスピーカーをお願いできるようになり、私の授業では静岡や沖縄の方にリモート講演をしてもらいました。2年生の相談援助演習では、見学実習ができない中、北海道支部のご協力により Zoom でリアルな現場の話をしてもらえ、心より感謝しております。来年度もおそらくオンライン授業は継続することが予想されていますので、今後もぜひご協力をよろしくお願いします。

前期授業をオンラインで行った教員は少数でした。しかし、後期授業からは多くの授業で Zoom が活用されるようになりました。また一部通学を認め、学年ごとに通学する週を設けて、大教室の必修授業以外は通学できるようになりました。かつ、自分や家族の事情でオンライン受講を希望する場合は、これを認めるというハイブリッド型の授業となりました。1年生にとっては、初めてキャンパスに足を運ぶことができ、同級生と会えるようになったのは、何よりの喜びでした。

学年ごとの通学は再開しました。ただ、サークル活動については3月から休止となり、今も学生会館を使用できない日々が続いています。そのような状況下、ボランティアセンターの呼びかけでオンラインでのサークル紹介が行われ、1年生と上級生達との繋がりも少しずつ生まれてきていました。社大のサークル活動は主に2年生が執行学年であるため、現在の1年生の参加が少ないと、来年度の活動に支障が生じることが懸念されています。そこで、それぞれのサークルができることを模索しており、私が顧問をしている被災地支団体 Cocoa ではこれまで、気仙沼へ継続的に訪問してきものの、それでできなくなったため、学生達は手分けしてクリスマスカードを作成し、子ども達に贈る活動をしました。

実習については、とても大きな影響がありました。社会福祉士実習は卒業要件にもなっており、全員が行うものです。今年度は実習先から「受け入れを控えたい」との連絡が相次ぎました。厚生労働省からは「実習に代わるプログラムを学内で受けても良い」という見解が示され、大学によっては全員を学内演習に切り替えた所もあります。しかし本学では、現場実習を通じて体と心で感じながら学ぶことの大切さを重視しているため、可能な限り実習を行うようにしてきました。実習教育センターが再配属の調整を続けてくれたこと、そして困難な状況の中、学生達を受け入れてくれた社会福祉現場のみなさんに心から感謝しております。

新型コロナウイルス感染症により、多くの人達が経済的に厳しい状況になっています。本学の

学生達もその例外ではないため、そうした学生達に対しては学内や外部の奨学金で対応してきました。現在のところ、相談のあった学生達に対しては何らかの奨学金等に繋ぐことができていました。したがって、今後も学生達の声を丁寧に聴いていく必要性があると感じています。

今年度の卒業式は、3月19日であり、12月の時点では卒業生のみでの参加で実施する方向性が示されています。4年生達は、友達となかなか会う機会が持てない中、国家試験勉強をしつつ、卒業式の衣装レンタルや着付けの手続きを行い、みんなで巣立つ日を心待ちにしています。東京都内の感染者数はいまだ衰える兆しがありませんが、何とか卒業式を開催して送り出すことができればと願っています。

同窓生のみなさんにおかれましては、それぞれの現場で命と暮らしを支えるためにご尽力してくださっていることに改めて感謝するとともに、どうぞご自愛いただき、後輩達の進む道をさらに明るく照らしていただければありがたいと思っています。

今後とも、社大及び社大生へのご支援及びご指導を何とぞよろしくお願い致します。

現役社大生に対する支援についての心からのお願い

下記、総会報告「8. その他報告事項など(2)」のとおり、幹事会の諒承を得て、会長名にて、「会員のみなさんへのお願い」という形で、「コロナ禍により経済的な支援を必要とする現役社大生に対する支援について、道同窓会員に対して、任意での募金への協力を依頼」しています。

これはあくまでも「任意」ではあるものの、できるだけ多くの同窓会員等のみなさんよりのご協力をお願いしたいと考えています。

ご協力くださる方は、道同窓会費送金の際などに、募金を上乘せしてご送金ください。

送金先は、ゆうちょ銀行 口座名＝日本社会事業大学同窓会北海道支部

記号＝19000

番号＝44245181 です

何とぞご理解の上、ご協力をよろしくお願い致します。

『生きるということ』（萌文社刊）

北海道同窓会員（北大教授→法政大教授）の杉村宏氏が、標記の本を上梓しました。サブタイトルは「私家版－生きる意味を公的扶助ケースワーク論に問う－」です。

この本は、公的扶助＝生活保護の社会福祉実践とその研究に長年携わってきた著者の「集大成」とも言えるもので、内容的にも大変貴重な見識が示されています。

具体的には、「貧困の中の幼少期」に始まり、生活保護、公扶研との出会い、生保ワーカーとは何か、その支援の内実、その専門性、また「貧困をどうとらえるか」、生存権保障、相模原事件とコロナ・パンデミック…と続いています。

そして、「なぜ公的扶助活動に「研究」が必要なのか」、「編集を終えるにあたって」から成っています。

公的扶助＝生活保護に携わっている人たちばかりではなく、社会福祉に従事しているすべての人たちにとって、必携の書です。

是非、お買い求めの上、社会福祉実践推進の原動力にさせていただきたいと思います。

北海道道支部の定期総会を紙面により開催しました

道同窓会事務局長（学部第21期） 儀藤 敦

従来、北海道支部の定期総会は、毎年1月下旬に新春セミナーを兼ね札幌市内で開催してきました。

しかし、今年の定期総会については、村上会長等同窓会「幹部会議」と協議した結果、コロナ禍により集合型の総会開催は困難と判断し、書面による総会とすることにしました。

まず、昨年末に書面による幹事会を開催し、書面による定期総会開催と総会議案について承認を受け、これに基づき、1月12日に支部会員宛に総会議案等と共に書面評決用返信ハガキを送付しました。

1月31日現在で支部会員は107人。うち54人より返信があり、議案に対する反対は「反対」は全くありませんでした。これにより全議案の承認を得たと判断いたしました。

承認を得た議案は、以下の通りです。なお、詳細は送付した議案等のとおりですので、以下、必要部分のみを再掲します。

1. 議案第1号 2020年事業報告（報告の通り承認）

- 1) 新春セミナーの開催(参加者、総会、役員改選、新春セミナー学習会、参加者の近況報告等)
- 2) 「あなたのキャリアプラン実現のための福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会」(コロナ禍で中止。母校同窓会には「同窓会活動の活性化」及び「現役学生への支援」を提案)
- 3) 同窓会幹事会への取組、提案等(①大学として、学生支援の具体的政策を早急に打ち出し、かつ実施すべく関係機関や政府等に要望を上げてみてはどうか。このことを同窓会として大学に申し入れてほしい、②社大生はかつて同様、今も厳しい生活を強いられているだろうから、同窓会として同窓生に支援基金を募って、学生を直接支援してはどうか)
- 4) 日社大市民公開セミナー(秋季セミナー)に関する取組(2年連続でセミナー開催ができなかった)
- 5) その他(①機関紙「アガペ」を4回(27～30号)発行…「社会福祉随想リレー」において、塚本さん(学部57期卒)が「発達障害のある人の支援と自分について」を3回に亘り掲載、コロナ禍にあって同窓生がどんな思いで活動を継続しているのか等について、10人のメンバーよりの投稿、村上会長よりの「同窓会活動を強化しましょう!」の呼びかけ、②同窓会活動の発展、強化…新事務局長の許、道内同窓生の所在確認を含む作業が大幅に進捗し、新たな同窓会員の発掘もでき、また道同窓会として数年に亘り母校同窓会幹事会に対して建設的な提案を行い、一部は母校同窓会において実現、③ヨコイトとの連携強化…18年3月に道内在住の社会福祉系14大学出身者30人により結成された「北海道社会福祉系大学等卒業生等交流会」(通称「ヨコイト」)と秋季セミナーを共催、ヨコイト自体は「緩い繋がり」の連絡会組織であり、個人、団体、組織等の枠を超え、お互いの活動

交流を図り、北海道の社会福祉現場及び研究等の向上発展のために寄与していく組織であるため、今後とも道同窓会としては倦まず弛まず、道内の個人、団体、組織等に働きかけをしていく)

2. 議案第2号 2020年会計報告

提案通り(収支共に154,427円)承認

3. 議案第3号 2020年社大市民公開セミナー会計報告

コロナ禍で開催できず、「収支なし」で承認

4. 議案第4号 2020年監査報告

報告の通り承認

5. 議案第5号 2021年事業計画(案)

提案通り承認(以下、その内容)

- 1) 21年新春セミナーは、コロナ禍で開催は困難と思料し、持ち回り(書面)による総会を実施する
- 2) 21年秋季セミナー(日社大市民公開セミナー)の開催は、コロナ禍の状況により実施を判断する
- 3) あなたのキャリアプラン実現のための福祉現場で活躍するOB・OGとの交流(「あな交」)は、これまでの実施成果を踏まえ、主催者である母校同窓会と協力し、他県同窓会等との共催を追求していく
- 4) 機関紙「アガペ」の発行は12年12月に創刊号を発行以降、これまでに通算第30号まで発行済みであり、今年度も年3~4回程度の定期発行をめざすこととし、第31号は、総会終了後の2月の発行を予定。「アガペ」では、道同窓会及び会員の動向、会員相互の交流の場として「社会福祉随想リレー」を継続するほか、時々に応じた特集等を組み社会福祉情勢や社大の動向もビビッドに伝えていく
- 5) 「新人」の発掘については、発掘に取り組んできた成果として母校同窓会名簿で確認でききる120人超の道内在住者のうち2021年1月1日時点で支部会員数は107名であり、今後も母校や母校同窓会とも連携を取り、在学生及び卒業の資料提供を受け有効な情報交換を積極的に行うめ、「アガペ」等を通じて道内同窓生の連携強化に努めていく
- 6) 母校同窓会への提案については、社大(教育分野)及び社会福祉現場(実践分野)双方の力働向上のため、今後も情勢や状況に見合った同窓会幹事会等への積極的な提案をし、その実現をめざしていく
- 7) 幹事会開催の定例化に向け、引き続き正副会長及び事務局を中心とした実務体制(「幹部会議」)の確立を図りつつ、コロナ禍が続く中では、メール等を最大限に活用して結束を図りつつ、次期体制を視野に入れ、集団的な運営をめざしていく
- 8) 道同窓会としての学習機能の向上については、年2回のセミナー開催時に、①その時々社会福祉情勢の把握と分析、②社大生(社大卒業生)の役割の確認、③その他社会福祉実践等に必要なこと、を積極的に学びかつ検証し、併せて、特に必要と思われる課題が生じたり、母校教員等が来道した際には随時の研修の場を設け とともに、道同窓会員が関係している組織、団体及び法人等の研修会等についても、道同窓会員及び関係者等の

協力を得て積極的に周知し、参加を呼びかけていく。その梃子として、次項の「ヨコイト」の積極的な活用を図っていく

- 9) 「北海道社会福祉系大学等卒業生等交流会」(「ヨコイト」)については、①機会あるごとに他大学同窓会や関係団体等との協力を深め、その交流を積極的に促進していく、②特に社大市民公開セミナー(秋季セミナー)では、現地の関係者や行政等の積極的協力及び参加を追求することにより、「ヨコイト」の発展にも寄与する
- 10) その他、同窓会として必要と思われることを積極的に推進していく

6. 議案第6号 2021年秋季セミナー(社大市民公開セミナー)開催(案)

コロナ禍に鑑み、状況を分析しつつ開催を検討していくことで承認

7. 議案第7号 2021年事業予算(案)

提案通り(事業予算191,500円)承認

8. その他報告事項など

(1) 事務局からのお知らせとして

①「ゆうちょ銀行の通帳がATM対応に更新」により、会費の送金が安く、早く、簡単になりました

②「アガペ等の送付でメールの活用をしたい」ので、メール送信を希望する会員は送信先となるメールアドレスをお教え下さい

(2) 会長名で、「会員のみなさんへのお願い」として、同窓会員等にコロナ禍により経済的な支援を必要とする現役社大生に対して、任意での募金への協力を依頼

(3) その他の配布資料、①会則及び慶弔規程

②北海道支部役員名簿及び会員名簿

③総会&セミナーの歩み

以上、初の書面評決となりました2021年日本社会事業大学同窓会北海道支部の定期総会の概略につきまして報告いたします。

編集後記……「コロナ禍」で、国民全体が大変な状況に陥っています。政府の無策がそれに輪を掛けています。こうした中であって「社会の福祉 誰が任ぞ」を心に秘め、日社大同窓生としては、いま自分たちが遣れる様々なことを具体的に実践していくことが求められている、のだと思います。今後とも、絆を強くし、様々なご協力をヨロシクお願いします。なお次号は、4月発行予定です。